



大川市の奨学金制度について

宮崎 稔子 議員

問 大川市奨学会大学等奨学金について、ほかの奨学金制度にないような特徴は。

答 大学等奨学金については、貸与金額30万円を昨年度から50万円に変更し、ほかの奨学金制度との併用も可能としています。また、卒業後、本市に戻り3年以上居住されると返還免除となります。

問 大川市奨学会大学等奨学金は、入学前の3月でも貸与が可能か。

答 一月前までに申請いただくと貸与できるようにしています。

問 大川市奨学会高校等奨学金募集要項が昨年度から変わっているが、その内容は。

答 高校等奨学金については、月額1万円または1万8千円を選択する貸与型から、月額1万円の給付型へ変更し、返還不要としました。収入基準について、生活保護基準の1・5倍以下から1・3倍

以下に変更し、人物等の基準を新たに設けています。

問 大川市奨学会大学等奨学金制度は、入学時に一時的に要した費用に充てるための学費として、貸付けを行うものと定めているが、2年、3年、4年時の途中の学費にも充てることができる制度を追加できないか。

答 当該奨学金は、寄附金、市の補助金を基金に積み立てて運用しています。財源が限られており、そのほかにも検討を要することが出てくるため、制度を変更する前に、日本学生支援機構奨学金のほか、様々な奨学金制度や授業料免除等の支援制度を活用いただくことをお勧めするののも一つの方法ではないと思います。いずれにしても、よりよい奨学金制度となるよう事務局としても頑張っていきたいと考えています。



地方議会の組織運営と役割・後世への政策課題について

永島 守 議員

問 木工関連業界は伸び悩みが常態化し、新たな税収、産業への取組等、見受けられない中、人口問題と労働力流出を起因とする地方経済縮小への対策等は。

答 少子化対策の一環としても、若い方々に大川市が元氣なまちと捉えていただく必要があります。働いてよし、住んでよしのまちにすることが急務であり、これまでの子育て支援策とともに、企業誘致や投資の促進、「大川の駅」や大川リビルディング事業の取組を進めることにより、経済活性化という切り口から少子化対策に積極的に取り組んでいかなければならないと考えています。

問 「大川の駅」事業は、後世に先駆けた先進事業であり、多種多様な方面より大きな活用期待がなされている。安全・安心な後世をつくるためにも、我々政治に関わ

る人間が今やらなくてはならない一番大きな事業だと考えるが。

答 有明海沿岸道路の整備により、本市の交通インフラが向上している今、この新たな営業ツールを携えて、多種多様な企業を数多く訪問し、より積極的に企業誘致を進めていきたいと考えています。

「大川の駅」を拠点とした情報発信については、圏域の高度な独自の技術や商品・サービスを有する特徴ある企業、事業者の情報を集約し、「大川の駅」という物理的な空間に加え、オンラインでも国内、世界に向かって発信することを考えています。これにより、鮮度の高い情報の継続的な発信や、来訪者と双方方向のコミュニケーションを大切にすることで、関係人口の創出と企業や事業者から価値ある情報の提供をいただけるようなものになりたいと考えています。



大川市における災害対策について

古賀 寿典 議員

問 クリークの浚渫（しゅんせつ）について、現状と進捗状況は。

答 緊急浚渫推進事業債による浚渫工事は3年度から着手しており、3年度の実績は中古賀地区川端通町、小保地区、大野島地区、4年度は中古賀地区川端通町、向島地区、酒見地区、津地区で実施しています。今年度は出水期前に中古賀地区川端通町で延長308メートルを完了し、残りの計画では津地区と酒見地区を予定しています。

問 7月10日の大雨では、中古賀地区で床下浸水が発生し、市は重点的に災害対応を行っているとのことだが、更なる工夫が必要では。

答 根本的な課題は、新橋川から筑後川へ排水できないことで、今年度、県の事業として新橋水門の排水機場の予備設計業務に入っていたಿದೆいます。大きな施設ですのて来年すぐにできるとい

のではありませんが、そのポンプがつけば状況が大きく改善できると考えています。

問 熱中症対策のための避難所の取組は。

答 指定暑熱避難施設として、公共施設やスーパー等をクーリングシェルターとすることも一つの有効な手段かもしれませんが、図書館や健康福祉センターも常に開放していますので、シェルターの看板がなくても気軽に立ち寄りいただきたいと思っています。また、市の公共施設や大型商業施設は市の中心部にあるため、特に高齢の一人暮らしで、市内の農村部に住まれている方々のケアは地域の中で考えなければならぬと思っています。行政としてどのようなリードができるのか、しっかり考えながら高齢者の皆様の健康に留意していきたいと思っています。



「大川の駅」事業の計画について

龍 誠一 議員

問 事業スケジュールでは、今年度から用地取得が行われる計画だが、その進捗状況は。

答 不動産鑑定や用地測量、物件調査を終え、今年度中の用地取得を目指し、用地交渉に着手しているところとす。

問 「大川の駅」実施計画では概算事業費が大幅に増えているが、増加の原因と内訳は。

答 「大川の駅」実施計画における道の駅部分の概算事業費について、基本計画時からの増加額は、全体で約23億円となっています。内訳としましては、高付加価値化や単価設定の精緻化、資材高騰などにより建築工事費が約15億9千万円、敷地造成工の精査などにより土木工事費が約6億4千万円、これらの工事費の増額に伴いまして、設計費が約7千万円となっています。

問 用地買収、一次造成などは市の負担だが、財源確保ができて

答 用地取得費及び地盤対策工設計業務委託費については、さきの3月定例会において大半の議員の皆様よりご承認をいただきました今年度の当初予算として、まさに今年度執行中の予算です。また、私は市長就任来、市の財政運営を信託された市長として、大変厳しい中ではありましたが、市民サービスの向上とともに財政健全化に腐心してきました。常に市の財政が頭の中から離れた日はありません。このことについては、どなたよりも考えてきたという自負があります。今後、市が行う地盤対策及び造成に係る予算につきましても、このような考えの下、しっかりと財源確保を行っていきます。